

2024.03
Spring



いわて国際交流 世界はともだち



地元でも100%乗りたいスターフェリー (詳しくはP.8で)
More details on page 8 / 详情页面P8



特集1
P.2

令和5年度岩手県国際交流協会 主要事業の実施状況

特集2
P.4

イスラム教徒の皆さんとともに考える多文化共生

Working Towards Multicultural with the Muslim Community / 与伊斯兰教一起思考多元文化共存



令和5年度岩手県国際交流協会

主要事業の実施状況

協会では、2019年度から10年間を見据えた取組みということで、岩手県国際交流協会事業推進計画である「いわてビジョン2019」を作成し、3本の柱に沿って事業を進めています。令和5年度の実施状況の一部をご紹介します。

多文化共生の地域づくり

外国人との交流会「ちゃっとランド」の実施

文化紹介などを通じて在住外国人との交流を深めるイベントを定期的に行っています。今年度は、アメリカ・アリゾナ州の紹介、韓国の伝統行事「チュソク」の紹介等をテーマに、交流しました。

2023ワン・ワールド・フェスタinいわての実施 (11/20)

「フェスタ完全復活!さあ、世界を遊びつくせ!」をテーマに、体験ゾーン、国際交流関係団体ブース、カフェ、クイズ・ステージ等のプログラムを実施しました。また、商品の販売を通じたフェアトレードの理解促進事業を行いました。来場者は延べ3,550名でした。

県補助事業

多文化共生地域づくりセミナー・ワークショップの実施

- ・メディアフォン(株)と共催でセミナーを実施(7/22)
- ・盛岡マَسジドとの共催ワークショップを実施(2/25)
- ・西和賀でのワークショップを実施(3/7)

日本語サポーターの登録・育成と活用

県内在住の外国人から日本語学習の依頼があった際に、日本語サポーター登録者に活動いただいています。R5年度の登録者は122名、マッチングは32件です。

(※2月末時点)

また、山形、秋田、岩手の3大学4機関の連携で実施する「なか東北連携地域日本語教育人材育成事業」を修了した方は、日本語サポーターの「専門人材」として活躍いただいています。

地域日本語教育推進事業 県委託事業

県では、地域の実情や外国人県民のニーズに合った日本語教育を県内の幅広い地域で提供する体制をつくることを目的とし、取り組んでいます。

・在住外国人のためのオンライン日本語講座

(前期コース: 6/7~10/4、後期コース: 11/15~2/21)
在住外国人が地域で暮らしていくために必要な基礎的な日本語を効果的・効率的に学べるよう、昨年度開設した講座です。県内どこにいても受けられるようオンラインで開講し、日本語教育の専門人材である日本語教師が指導を行なっています。今年度は、各回3人の講師がついてサポートするなど、指導体制を強化して実施しました。

・日本語教室開設サポート

日本語教室がない地域、新たに立ち上げたい地域への教室開設サポートとして、4月から開設された大船渡市の日本語教室の走り出し支援を行ったほか、新たに2地域(一関市、紫波町)での日本語教室開設に向けての取り組みを支援しました。うち、一関市では8月から日本語教室がスタートしています。

その他、「日本語学習支援者向け研修」、「日本語教室への巡回訪問、相談対応」、「多文化共生セミナー」、「事業者向け啓発活動」などにも取り組んでいます。

災害時の外国人支援 県委託事業

災害時に外国人が取り残されないよう、災害時多言語サポーターの育成・認定(登録者数34名)、災害時多言語支援窓口設置運営訓練、県総合防災訓練への協力等に取り組んでいます。

事業の3本の柱

地域に根ざした
国際交流・理解の推進
多文化共生の地域づくり
次代を担う人づくり

地域に根ざした 国際交流・理解の推進

地域国際化人材育成研修

県補助事業

地域の国際化・多文化共生を担う人材育成のため行っているものです。第1回、第2回とそれぞれ『在留資格の基礎知識及び岩手県における外国人労働者の状況』、『外国人相談～情報提供と対応 事例を参考に～』をテーマに開催し、延べ57名が参加しました。

地域国際化推進会議の開催

地域における国際化・多文化共生推進や、相互の連携強化を目的に、市町村・協会担当者を対象に行っています。県央、県北、県南、沿岸の4地域において5月に実施し、延べ51団体、90名が参加しました。

国際交流関係団体等の活動支援助成

16件の助成を実施しました。

国際交流センターの運営

県委託事業

岩手県における国際交流・協力、多文化共生に関わる活動の拠点となる施設です。図書・物品等の貸出しや、ホームページ、SNS、情報紙等にて多言語による情報発信も行っています。

国際交流関係団体等との共催事業の実施

7/31と8/5に、ハロウ安比校キャンパスツアーを実施。その他にも、盛岡広域振興局と共催で多文化共生出前授業(八幡平市田頭小学校 他3校)を実施しました。

外国人患者・労働者受入体制整備

県補助事業

・川久保病院にて外国人医療相談会(協働 Espeyulo 等)を行い29名の方が受診しました。(11/25)
・県内の外国人労働者が活躍できる地域づくりを進めることを目的として、地域の協会・団体の協力を得ながら、外国人労働者と住民との交流の機会を設けています。今年度は、二戸、矢巾、釜石、紫波、大槌、一関で開催しました。

いわて外国人県民相談・支援センターの運営

県委託事業

在住外国人の相談対応や、外国人を雇用している事業所の訪問をしています。英語、中国語、ベトナム語、韓国語の相談専門員による相談対応の他、岩手県行政書士会、岩手弁護士会とも連携し、体制を整えています。

次代を担う人づくり

いわてグローバル人材育成推進協議会の運営

当協会は、産学官が連携する「いわてグローバル人材育成推進協議会」の事務局として、グローバルな視点を持ち地域の産業を活性化させたり、地域の課題を解決できる人材の育成に取り組んでいます。

・県内大学生等の留学支援

日本人学生3名の海外留学を支援しました。

県委託事業

・外国人留学生等の就職・定着支援

- キャリアフェアオリエンテーション(11/3、参加者13名)
- キャリアフェア(11/18、出展企業80社、参加者11名)
- いわてグローバルインターンシップ
- フィールドスタディー企業訪問(9/12、南部美人他参加者12名)
- 県内企業とのワークショップ(9/11、参加者:外国人19名、企業等23名)

多文化共生ワークショップ事業報告

イスラム教徒の皆さんと ともに考える多文化共生



ワークショップの様子

皆さんは盛岡にイスラム教の礼拝堂(マスジド)があることをご存じですか。私たちの身近にもイスラム教を信仰する住民、「ムスリム」が増えており、盛岡マスジドは大切な祈りの場、交流の場となっています。そこを会場に、2月25日(日)、ムスリムの皆さんと地域づくりや防災をテーマとしたワークショップ・交流会を行いました。その中で、小田 隆博氏(岩手国際理解教育研究会、元盛岡大学法人本部参事、元盛岡大学附属高校校長)をファシリテーターに行ったワークショップの様子をお伝えします。

まずは、ムスリムの皆さん、それ以外の皆さんそれぞれに、「盛岡・岩手のこれは良い、ステキ、好きなこと・ところ・もの」、「盛岡・岩手のこれは嫌だ、困った、問題だと思ふこと・ところ・もの」を挙げてもらいました。次に、「嫌なこと、困ったこと、問題だと思ふこと」から2つ選び「あなたならどうするか」を考えてもらいました。そこで、盛岡・岩手について「人が優しい」、「自然が美しい」など、肯定的な意見がムスリムの方から挙がった反面、「ハラールフード(ムスリムが食べてもよい食品)が見つからない」「言葉の壁、コミュニケーションが難しい」など問題・困難な点も指摘されました。

参加者の声を見て気づくことがあります。まずは次のような声。「日本人もハラールフードを食べていいんです。ハラール

フードは日本食ととっても似ています。肉とアルコールを避ければいいだけです。」「ハラールと考えると難しいので、ベジタリアンメニューを作ってもらえるとありがたい。」私たちは時に、異文化について難しく考えすぎたり、「郷に入れば郷に従え」を盾に相手が合わせることを期待したりすることがあるかもしれません。しかし、異文化を特別視せず、自分たちと「同じところ」に目を向けるだけで、歩み寄れることは多いのではないのでしょうか。

そして、「日本語を話してコミュニケーションを取りたい、日本語を学びたい」という多くの声や「仕事がしたい」との声。ムスリムの皆さんの多くが日本語をもっと勉強し、より良いコミュニケーションがとれること、また社会の一員として活躍することを望んでいるのです。

ワークショップの後は、盛岡マスジドの皆さんがご用意くださったマトンカレーやチキンビニヤニなどのハラールの食事を皆で一緒に食べて交流しました。皆さんの楽しそうな表情が印象的でした。言葉が通じなくてもさまざまなツールでコミュニケーションが取れるようになった今、まずは相手を一人の人として知ることが多文化共生の第一歩となると感じられた一日になりました。

Multicultural Workshop Report

Working Towards Multicultural with the Muslim Community

Did you know Morioka has a mosque? With more and more people of the Islam faith coming to live in Iwate, the importance of the mosque as a place to gather has grown in recent days. On February 25th, we held a cultural exchange workshop on community building and disaster preparedness at the mosque. Led by Oda Takahiro, a member of the Iwate Society for Global Education, this is how the day went.

In the beginning, everyone in attendance was asked what they liked and what they thought was good about Morioka and Iwate. Everyone was then asked what they didn't like or found difficult or problematic living in Morioka and Iwate. From the issues raised, each person was asked to pick two and give their opinion or any possible solutions to the issue. Through this exercise, we were able to learn that although many people noted that the people in Morioka and Iwate are nice and the beauty of the natural landscapes, several areas of concern were raised, including the lack of Halal meal options and communication barriers.

There are many things we learned hearing from the participants. One Japanese participant was surprised to hear that Halal food is not restricted to Muslims and so long as meat and alcohol is avoided, they noticed the similarities between Halal

food and traditional Japanese cuisine. However, one of Muslim participant pointed out that the idea of Halal food might be difficult to understand and suggested that Japanese people make vegetarian menus instead. Sometimes, we end up overthinking the idea of other cultures, or we put up a shield and just say "When in Rome, do as the Romans do", expecting the foreigners to adjust to our culture, but by respecting our cultural differences and focusing on the same goal, we should be able to understand each other more than ever.

There was also some feedback from the Muslim participants; mostly on wanting to learn Japanese, communicating with the local community better and finding employment. From this, we can see their earnest desire to study more Japanese to be able to communicate better and become an active member of society.

After the workshop, everyone socialized while eating a meal of lamb curry and biryani prepared by the mosque. Seeing the pure joy on everyone's faces was a highlight of the event. In a day and age where tools and technologies can help us communicate without having to know the language, this workshop allowed us to realize the first step towards multiculturalism is to understand the other person as an individual.

多元文化共存研讨会报告

与伊斯兰教一起思考多元文化共存

您知道盛冈有一座伊斯兰教礼拜堂（清真寺）吗？在我们周围，信仰伊斯兰教或“穆斯林”的居民数量越来越多，盛冈清真寺已成为祈祷和互动的重要场所。2月25日（周日），我们与穆斯林举办了以社区建设和防灾为主题的研讨会和交流会。以下是由小田贵宏先生（岩手县国际理解教育研究会、前盛冈大学法人本部参事、前盛冈大学高中校长）主持的研讨会的情况。

首先，分别询问穆斯林的各位和其他所有参加者，“盛冈/岩手的好事物、好地方和喜欢的东西”和“盛冈/岩手的什么事情·地方·事物是有问题的，你不喜欢的，让你为难的”。接下来，我们要求他们从“不喜欢、让人为难或认为有问题的事情”中选择两件，并思考“你会采取什么措施”。虽然穆斯林对盛冈和岩手给出了积极的评价，例如“人们很友善”和“自然风光很美”，但也表示“找不到清真食品（穆斯林可以吃的食物）”和“有语言障碍，交流很困难”等问题和困难之处。

通过聆听参加者的声音，我们注意到穆斯林提出的一些意见。首先是以下声音。“日本人也可以吃清真食品。清真食品与日本食品非常相似。你只需要避免肉类和酒精。”“思考什么是清真食品很难，所以如果能制作素食菜单的话将不胜感激”。我们有时可能对其他文化想得太多，或者我们可能期望别人能够“入乡随俗”来适应我们。然而，我相信，不将其他文

化视为特殊的，并简单地关注与我们自己的文化“相同的地方”，我们将更容易接受它们。

同时我们还听到许多穆斯林说，“想学习日语，更好地与当地居民沟通”，“我想工作”。从中看出许多穆斯林希望更多地学习日语，能够更好地沟通，并成为社会的积极成员。

研讨会结束后，我们一边吃着盛冈清真寺成员准备的清真餐，如羊肉咖喱和鸡肉宾亚尼，一边愉快的沟通交流。看到每个人脸上都洋溢着幸福的笑容，真是令人印象深刻。在即使我们说的语言不同也可以通过各种方式交流的现在，让我们意识到了解对方每一个人是在迈向多元文化共存的第一步。



聞いて！あたしの自慢

Listen Up! What I Am Proud Of

听！这是我最引以为豪的



県内在住外国人の方が、皆様にぜひ聞いてほしいことを紹介します！
Introducing things the foreign residents of Iwate want everyone to know!
介绍给大家居住在县内的外国人最想传达的事情！

私の自慢のお母さん ニン ティ タオ (ベトナム)

私の一番の自慢は何かと尋ねられたら、私はきっとためらわず「私のお母さん」と答えます。母の身長は145cmで小柄ですが、いつもニコニコしています。私が16歳の時に、父が病気で亡くなりました。結婚している姉3人を除いて、私と弟が勉強できるように、母ひとりで日々一生懸命仕事をしています。母は今年62歳になりましたが、まだ大学2年生の弟のためにこれから何年も頑張らないといけません。

一生懸命な母は常に私の誇りで、見習いたいと思っています。母は生まれも育ちも田舎で、ベトナム戦争の苦しさも体験しました。母は、両親に小学3年生までしか学校に通わせてもらえなかったため、体力を使う仕事しかできません。学校を辞めた母は、両親と一緒に米を作ったりサトウキビを市場に売り出したり、様々な仕事をしていました。母は26歳の時に父と結婚してから米作りの合間に大工のお手伝いのような仕事をしていました。父は姉3人を中学まで行かせましたが、家族の経済



笑顔で写るタオさんのお母さん

力がないため、その後大工の仕事をやらせました。私と末っ子の弟が進学できるように、母が一生懸命父を説得し、以前の倍以上努力しました。

私のことを否定しない母を、私はいつも自慢に思います。生まれてから家庭を持っている現在まで、母に怒られたことは一度もありません。母は自分の学歴や知識が浅いと認めていて「あなたのことだから、あなたが決断を出していいよ」と言ってくれました。そして、「自分が決めたから、最後まできちんとやってね」といつも教えてくれました。その母の育て方のおかげで、私は人生の大きな決断を自分で決められました。その決断が周りの理解を得られない時でも、母は優しく「頑張っってね」と言ってくれました。母のお陰で今の私ができたと思います。

去年の11月末、5年半ぶりベトナムに帰って母と姉弟に会えました。母の姿、母の顔のしわとカサカサな手を見てなぜか涙が止まりませんでした。私が日本に来てから自立するまで長い間、母がどれだけ苦労したのかよく理解できました。母と自分の家族のためにこれからももっともっと元気で丁寧に生きようと心に誓いました。



ノイバイ空港での家族集合写真

My Mother

Ninh Thi Thao (Vietnam)

If you were to ask what I am most proud of, I would definitely answer with “my mother.” Although my mother is a petite 145cm tall, she always smiles brightly. When I was 16, my father passed away from illness. My mother worked tirelessly every day so my younger brother and I could continue to have an education (in spite of the fact that my three older sisters could not). My mother turned 62 this year, but as my brother is still in his second year of university, she must continue to work for at least another several years.

My hard-working mother has always been my pride, and I hope to learn from her. My mother was born and raised in the rural countryside, and had even experienced the hardships of the Vietnam War. Her parents did not send her to school beyond three years of elementary school, so physical labour is the only work she is able to do. She did various jobs like helping her parents plant rice and selling sugar canes at the market. After marrying my father when she was 26, she would do jobs like helping with carpentry in the downtime from her job with planting rice. My father had my three older sisters attend school up to middle school, but due to our financial situation they were made to take up carpentry work afterwards. My mother persuaded my father

to allow my younger brother and me to be able to have a higher education, and she worked harder than ever before to make that happen.

I am proud that my mother is always supportive of me. Since I was born, she has never once gotten mad at me. My mother recognizes that she had little education and knowledge, so she would tell me “it’s for yourself, so you’re the one who has to make the decision.” She would always tell me, “it’s something you decided, so make sure you carry it through to the end.” Because of her way of bringing me up, I was able to decide for myself on important choices for my life. Even when others could not understand the decisions I made, she would tell me kindly to do my best. It is because of my mother that I am who I am now.

At the end of last November, I went back to Vietnam for the first time in five and a half years to meet my mother and siblings. I do not know why, but I could not stop crying when I saw my mother and her rugged hands and wrinkled face. I know how hard she had been working in the long period since I came to Japan to live my own life. I vow to continue living as happily and with as much care as I can with my mother and my family.

我引以为豪的妈妈

Ninh Thi Thao (越南)

如果你问我最自豪的是什么，我肯定会毫不犹豫地说：“我的妈妈”。我妈妈身材娇小，身高只有145厘米，但脸上总是挂着微笑。我16岁那年，父亲因病去世了。除了结婚的三个姐姐以外，我的母亲为了我和弟弟能够读书，每天都在努力工作。我妈妈今年已经62岁了，但为了还在读大学二年级的弟弟，她还要在未来很多年里继续努力工作。

我的母亲是一个勤奋的人，我一直为她感到骄傲，我想效仿她。我的母亲在农村出生和长大，经历过越南战争的艰辛。我母亲的父母只允许她上学上到小学三年级，所以她只能从事体力工作。辍学的母亲与外公外婆一起从事各种工作，包括种植水稻和去市场上卖甘蔗。我母亲在26岁嫁给我父亲后，她在种水稻的间隙做木匠的帮工。父亲送三个姐姐读完初中，但由于家里没有经济实力，后来就让她们去做木匠。为了我和最小的弟弟能够上学，母亲竭尽全力说服父亲，比以前更加努力地工作。

我一直为从不否认我的母亲感到骄傲。从我出生到组建了我自己家庭的现在，我妈妈从来没有生过我的气。我妈妈承认自己的教育背景和知识有限，并告诉我，“这是你的事，所以你可以做决定。”她总是告诉我，“这是你自己的决定，所以要坚持到最后。”感谢母亲抚养我的方式，我能够自己做出人生的重大决定。即使周围的人不理解我的决定，母亲也善意地告诉我：“加油呀！”我想我之所以能有今天，是因为我的母亲。

去年11月底，我时隔五年半第一次回到越南，见到了我的母亲和姐弟。当我看到母亲的身影，布满皱纹的脸和干燥的双手时，不知道为什么我的眼泪止不住的流下来。我现在明白了，从我来到日本到我独立之前，我母亲是多么的辛苦。我对自己发誓，为了我的母亲和我的家人我今后会更加健康，更加认真地生活。

わたしのおもひで

Personal Memories / 我的回忆录

ウォン イェトゥ、トム
(香港)
WONG YIK TO, Tom
(Hong Kong)



地元でも、100パーセント乗りたいスターフェリー

スターフェリーは、1888年に香港島の中環と九龍半島の尖沙咀(チムサーチョイ)を結ぶフェリーの運航を開始し、100年以上の歴史を誇ります。現在は尖沙咀(チムサーチョイ)と中環、湾仔(わんし)の間の便のみが運行されています。スターフェリーに乗れば、ビクトリア・ハーバー両側の景色を楽しみながら、忙しい日常から離れてリラックスできます。中環のサービスのみがアップーデッキまたはロワーデッキに乗れるため、中環のサービス便を利用することをお勧めします。

私が子供の頃から大人になるまで、スターフェリーから見える景色はあまり変わっていませんが、乗るたびに違う気持ちになります。特に、日本に留学してからは、香港へ一時帰国する際に、スターフェリーに乗ってカメラで目の前の香港の景色を撮ります。そして、少なくとも夕暮れと夜に1回ずつ乗ることにします。夕暮れと夜のビクトリア・ハーバーの景色が全く違うからです。

The Star Ferry: A Much Loved Ride Even as a Local

The Star Ferry first started operating in 1888 and carried passengers between Central on Hong Kong Island and Tsim Sha Tsui on the Kowloon Peninsula, and has a proud legacy of over 100 years. It currently only offers passage from Tsim Sha Tsui to Central and to Wan Chai. While riding the Star Ferry, you can enjoy the scenic views on both sides of Victoria Harbour as well as have a breather away from a hectic daily life to relax. Only the ferry from Central offers an upper and lower deck, so I recommend taking this route.

Although the scenery while riding the Star Ferry has not changed much from my childhood all the way to adulthood, it does not feel the same to me each time. After studying abroad in Japan, whenever I come back to Hong Kong I always take the Star Ferry and take pictures of the view with my camera. I take the ferry at least once at sunset and once at night, because the scenery in Victoria Harbour is completely different at sunset and at night.

即使是本地人也爱不释手的旅程

天星小轮早在1888年便开始营运连接香港岛中环及九龙半岛尖沙咀的渡海小轮, 到目前为止已经成立超过一百年。现在只剩下尖沙咀来往中环, 湾仔的服务。乘搭天星小轮可以从维多利亚港中欣赏两岸的景色, 乘搭时可以在繁忙的生活中有一息放松的心情。由于只有中环的服务才可选择乘坐上层或下层, 所以推荐乘搭来往中环的渡轮。

从小时候跟家人一起乘搭到长大成人后独自乘搭天星小轮, 虽然景色没有太大的变化, 仅是每一次乘搭时候都会有不一样感觉。特别在来日本留学后, 每次回香港的时候最少在黄昏和晚上乘搭天星小轮各一次, 因为黄昏跟夜上的维多利亚港景色是截然不同, 用拍照来留下眼前所看到的香港。